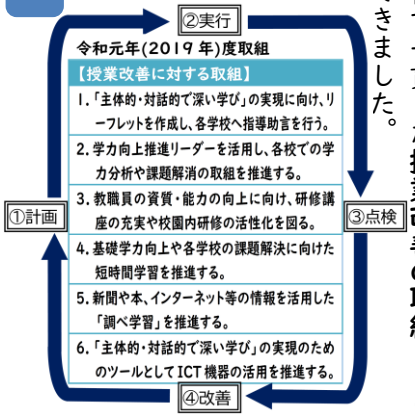
ふれあいつながり かわら版

令和元年度 教職員・児童生徒意識調査

本市では、未来を拓く子供たちの学力を高めるために、小学校と中学校で一貫した**授業改善の取組１～６**（左下図）を進めてきました。

今号では、令和元年１２月に実施した「意識調査」の結果をもとに、これまでの取組を点検し、次年度の取組について考えます。



教職員調査

取組１～６（右図）とは、**「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善の取組**と考えることができます。それぞれの取組に対応し、教職員に対する**質問項目①～⑥（下図）**を設定して実施状況を点検しました。

教職員調査からは、授業の中で「主体的・対話的で深い学び」の姿が実現できていると感じている教職員は現時点では**60％**に達していません**①**。しかし、新学習指導要領実施後には、全ての教職員にそのような姿の実現が求められます。

そのためには、一部の教職員だけではなく、学校全体での実現を目指すべきです。そこで、学力向上リーダー等を中心とした教科の枠を超えた組織的な取組が必要となります**②小73.7％中56.2％**。

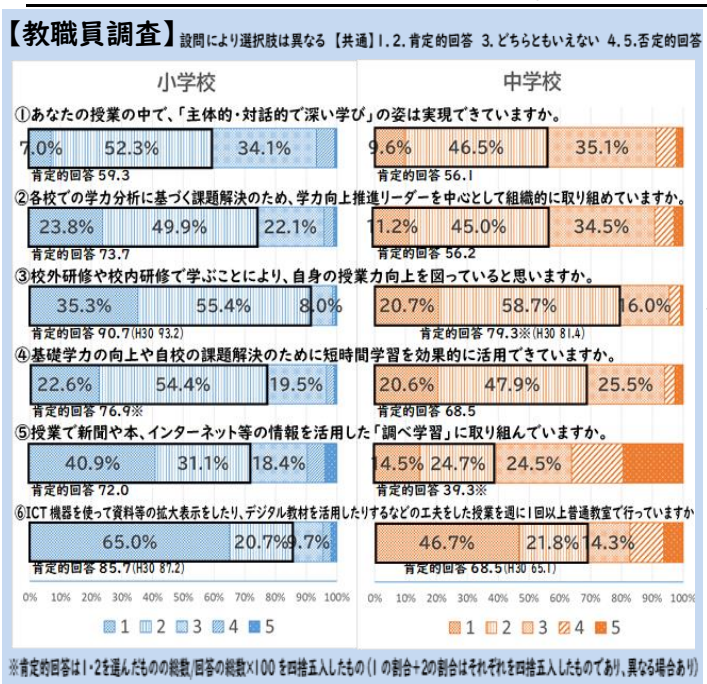
これからの授業は、習得した知識を活用する場面の設定が求められています。そのためには、全ての基盤となる基礎学力の定着が必要であり、今後も短時間学習の充実等が求められます**④小76.9％、中68.5％**。

さらに、主体的に学び続ける子供を育てるためには、自分の興味関心から設定した課題を解決し、次の学びにつなぐ探究的な「調べ学習」を充実させる必要があります**⑤小72.0％、中39.3％**。

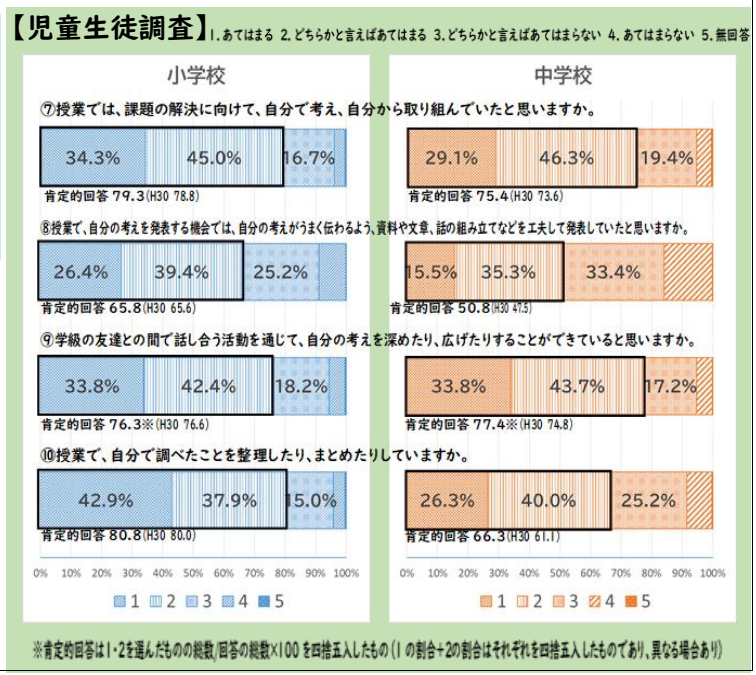
今年度、中学校におけるＩＣＴ活用率が上昇しました**⑥**。しかし、協働的な学びを実現するため、学習者の視点から活用方法を検討しなければなりません。

また、各校における校園内研修を活性化することが大切です**③昨年比ポイント減**。例えば、教職員支援機構（ＮＩＴＳ）作成のオンライン動画等を活用することも有効です。

姫路市教育委員会
学校指導課
小中一貫教育推進係
(079)221-2120



児童生徒調査

教職員が「主体的・対話的で深い学び」の姿がまだ実現できていない**①小中とも60％以下**と感じているのに対して、子供たちは「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」**⑦小79.3％中75.4％**、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできた」**⑨小76.3％、中77.4％**と感じています。また、「授業で、自分で調べたことを整理したり、まとめたりしていますか」という質問に対し、中学校の生徒の**66.3％**が肯定的な回答をしています**⑩昨年比5.2ポイント増**。

教職員による、授業改善の取組は、子供たちの意識の変化という形で確実に進んできています。本市では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、授業改善の取組１～６を継続して推進しますので、小学校と中学校が一体となり取り組んでいきましょう。